令和４年度　第２回　学校運営協議会議事録

日時：令和４年１０月２８日（金）　１５：００～１７：００
場所：大阪府立中央聴覚支援学校　高等部会議室
学校協議会委員（敬称略）
　井坂　行男（大阪教育大学教育学部　総合教育系特別支援教育部門　教授）
　伊藤　弘一郎（南大江東連合振興町会　会長）
　前田　浩　（大阪ろう難聴就労支援センター　理事長）
　良原　惠子（大阪府立校スクールカウンセラー　スーパーバイザー）
　尾中　友哉（ＮＰＯ法人Ｓｉｌｅｎｔ Ｖｏｉｃｅ代表）
　佐藤　てるみ（本校 PTA 会長）

１．開会
２．学校長挨拶
３．学校の様子について
　　キャリア教育を中心とした内容について幼小中高各部及び寄宿舎より報告
４．議事
　　令和４年度学校経営計画中間報告について学校長より説明

＜委員からの主な意見・質問及び回答＞
①安全安心な学校づくりに関して
・備蓄物資の保管場所について、安全な場所にあるか。
→本校は大阪市の指定避難所であるが浸水想定区域外のため、グラウンドの倉庫に保管している。校内用の備蓄材についても整備を進めている。避難所の開設時には子どもの待機場所を工夫する必要がある。
・避難所では、教職員の負担が心理的にも増えることを認識しておいてほしい。
・ＰＴＡとして防災講演会を実施した。災害時に地域の聞こえにくい人への対応はどのようにすればよいか、卒業生のネットワークなどがあるのか等、きいてみたい。
・人権尊重の学習についての成果をききたい。
→中学部では、境界線についての学習を重ねている。集会で生徒がパワーポイントを使って説明したり、掲示物を作ったりして他学年への啓発も行っている。
②子どもたちの学ぶ力の育成とキャリア教育に関して
・各学部からキャリア教育について説明あったが、プログラムの全体像との関連はどのようになっているのか。各学部の取り組みがつながるように考えていってほしい。
・キャリア教育プログラムは公開すると共に、校内で十分理解した上で進めてほしい。
→公開し、昨年度には改訂も行った。目標として人間関係形成をあげている。各部で検討し、段階を踏んで発達していけるように作成している。校内の勉強会は今後進めていきたい。
・デフリンピックで活躍した先輩の姿を見て憧れるのは良いことだと思う。
③教員の専門性の向上に関して
・教員の仕事は、子どもが「もっと知りたい」と思える授業をすること。ICT 機器の使用や教科の壁にとらわれず、相互に見合って批評しあう研究授業を大切にしてほしい。
→授業公開は行っている。
→「わかる授業」「子どもが引きつけられる授業」のために ICT を活用したい。課題としては

フィードバックする時間を作ること。

・板書、口形、手話、話し方などオーソドックスな研修も必要。生徒の意欲を引き出すような授業をどのように進めるかを研究してほしい。

・ICT の分野では音声認識が進んでいる。社会で普及が進むことで逆に通訳などの保障が疎かになってしまうこともありえるので、慎重に考えることも必要。便利なアプリやスマホの機能はうまく活用できるようになっていきたい。

④センター的機能充実と開かれた学校に関して

・就学前の子どもについて、病院（耳鼻科医）との連携が大切。他県で病院との勉強会を行い、聾学校の子どもの数が増えた例がある。

→本校では、子どもたちが通院している各病院と連絡を取り合っている。特定のところとの勉強会はしていない。人工内耳の術数は増えているが、今のところ幼児数は必ずしも手術数と関連しているわけではない。

・厚生省と文科省が連携して、乳幼児の支援をしているようだが。

→「切れ目のない支援」として教育、福祉、医療などで支援が継続できるようにシステムの構築が進められている。

・災害が起きた時の対応方法について、地域は今後も学校と連携をしていきたい。

５．事務局より連絡

・次回開催予定　　第３回学校運営協議会　令和５年２月２２日（水）

６．閉会